

寺 報 善 巧

発 行
〒938 富山県下新川郡
宇奈月町浦山497
白雪山 善 巧 寺
☎宇奈月 0765(65)0055

寺
ごよみ

七月

一日 お講 音沢
永代祠堂 会
一五〇 午後一時 お速夜
一六〇 午前十一時 お講・中陣
午後一時 お満座

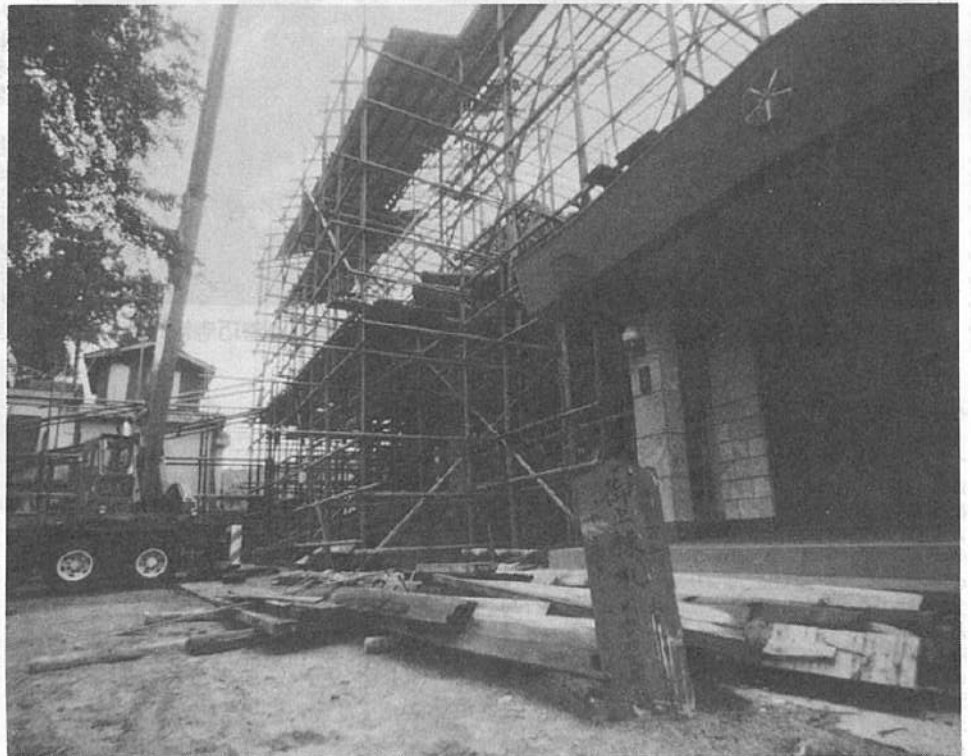


寺の本堂大修復のため
今年の祠堂経は
一五、一六の両日のみ
おつとめいたします。
なお、祠堂経とは、
門徒の皆様の先祖の法事
ですので、万障繰合わせ
お参り下さいますように。

永代祠堂会

法 話 里村了学師

七月十五、十六日のみ



昭和の大修復として、京都の本
派本願寺の阿弥陀堂の改修工事は
無事竣工して、来年は慶讃法要が
行われる運びになっています。奈
良の大仏殿の大屋根の改修も、国
家の事業として行われ、賑々しく
完成法要が営まれたのは記憶に新
しい事です。

浦山 善巧寺にとっても、今回
の大修復は大事業で、寺の
歴史に残る大仕事であります。
吉野工業KKによって、解
体作業が、幸いにも好天候
の下で行われました。その
時、大屋根の頂上から木札
が出て来ました。縦九十三
センチ、横三十一センチの
板です。

「御上棟札」と真中に書い
てあり、明治十四巳年十月
六日建之と、日時が示され
ています。明治十四年とい
うと今から百三年以前で、
前住一才のとき、真教院順
圓法師の住職の時代に当り
ます。善巧寺本堂が建立さ
れた時の有様を知っている

人は、今は、一人も残って居りま
せん。今から百年以前、工作機械
も新工法も無い昔、寒村の浦山に、
大伽藍の建立に着手なさった時の、
住職や門徒の方々の心情を推量す
るとき、祖先の大きな志が胸に迫
るように眼前に現成すると共に、
不思議な法縁につながれた今日の
私達が、この祖先の志を受けつい

善巧寺大修復

で、昭和の修復に全精力を傾倒す
べき励みともなるのです。
木札には、「天下和順 日月清明
風雨以事、災勸不起」と誌されて
居ります。

今、手元にある梵唄本の「例時
作法」の回向句に此の文句があり、
更に、次のように続けられていま
す。「国豊民安 兵戈無用 皇帝萬
歳 伽藍榮久、仏子安穩 紹
隆正法 歸命頂礼 無量壽尊」

文字通り、本堂が幾久し
く栄え、仏の子の私達が此
の本堂で、心安らかに仏法
に救われることが、此の上
棟札に、此の文句を誌され
た百年昔の祖先の心の中の
願いであつたに違いありま
せん。

私が此の文章を書いている
現在、工事は、未だ緒に
ついたばかりです。予定で
は、十月中旬までかかる筈
です。此の寺報を読んで頂
いている時は、破風型おこ
し、材木きざみの最中だと
思われます。

「風雨以事 災勸不起」工事の無
事進捗を、御一緒に念じつつ、皆
様方の変らぬ御心づかいに感謝申
し上げている毎日です。

七月十五、六日には、仮本堂の
空華殿で、祠堂会も勤修されます。
工事の模様も御見学なさって下さ
る様、御願ひ致します。

住職 雪山 俊之

善巧寺大修復事業着工の顛末

私たちの寺、善巧寺が、今冬の雪害に端を発して、大難題をかかえることになったことは、すでに寺報善巧四月号、ならびに門徒各位に配布させていただいた、住職の趣意書、説明書などで、よくよくご承知下さっているとは思いますが、重ねて、もう一度、今回の大修復事業着工に至った顛末を、各地区で行われた説明会のご意見等も含めて、お話させていただきます。



3月11日に端を発した寺の大屋根問題で、鳩首相談を重ねる善巧寺総代会

今回の修復事業に関して、まず門徒の皆さまにおことわり申し上げておかねばならないことは、この事業は、着々と計画的に進められた事業ではなく、突発的な、文字通り、この冬の大雪で、降ってわいた大難題である、ということでありました。

各地区の説明会でまずおしかりをうけましたのがこのことでありまして、

「こんな大ごとになる前に、なぜ、門徒衆に話が出来なかったのか」

被害状況

「総代だけで決めておいて、はい、こんな事業になりました、では、どうも話の順序が逆ではないか。こんな状態になったがどうしたらよいかと、門徒に聞くのが当り前でしょう。」

とのご意見を承りました。もちろんその通りであります。今回の場合は、被害状況が刻一刻と変化して、どこで報告をすべきか、まったく見当がつかないというのが現状だったのであります。

そこでまず、六月末現在でようやくつかめた寺の大屋根の現状に

ついてご報告させていただきます。雪害による被害は、すでに寺報善巧四月号や説明書に掲載しましたように、大屋根のほとんどの部分で瓦がずれたり、落ちたりで、三月十日には内陣はさぞもれ状態になりました。

翌三月十一日、この日は寺の太子会で、総代と建設関係有志が集まって下さっていましたが、この現状を目の当たりに見て「とにかく

く応急措置を。そして臨時総代会を」ということになりました。

三月二十日、そんな中で第一回の臨時総代会が開かれ、被害状況から見ると、大屋根の瓦はすいぶん古くなっていて、単なるしめ直しではすまない。この際、新しく葺きかえなくてはならないのではないか、ということで話がまとまりました。(これが第一の決定でありましたが、このあと、刻々とその



八尾聞名寺へ視察に出向いた専門委

見せてもらったりして、研究を重ねると共に、この際、根本的な診断をしておいた方がよいのではないか、ということで、八尾聞名寺さんのご紹介で、富山の寺院建築の権威者である工匠、酒井匠さんそれに地元入善の仏閣設計者、大野和悦さんにそれぞれお願いして、善巧寺の本堂の総合診断をしていただくことにしたのであります。

決定事項が変わってゆきますのでご注意ください。そこで、葺きかえに関する専門委を結成して、このあと再三にわたって会合を開き、瓦か、銅瓦か、銅板かという問題から、耐久力、費用等について専門家を招いて話を聞いたり、八尾聞名寺へ銅板葺き大屋根の視察に出かけたり、入善養照寺で瓦葺きの屋根の状態を

専門家による診断結果

工匠、酒井さん、仏閣設計者の大野和悦さんは、屋根の雪解けを待つて四月上旬から数日かかりで綿密な現場調査をされました。まず酒井さんは、基礎、本堂をみられたあと、屋根裏に入られ、

まずいわれたことは「これはたいへんなことですね」でした。そして指さされた所は写真下のように、タル木とモヤの間にワイヤをまいてしめてある箇所でした。みると大屋根の裏のほと

んどに、こうしたワイヤでしめたところがあり、昔の修理の折に、応急の措置ですませたままになっていたことが明らかにになりました。

がったところ、次の七項目の問題点をあげられました。
善巧寺本堂の現況
①堂内をみると床の上り下りが目立つが、屋根への影響も大きいので、基礎から見直しておかねばならない。

②現在の屋根の軒先の上り下りが激しく、両側の隅木の先は四寸も下がっている。
③外廻りの軒先の通りもまっすぐでない。これは屋根裏のハネ木がゆるんで完全に軒先を釣っていないからで、全般のハネ木の調整が必要（このあと屋根をはぐってみると四本の大ハネ木がくさってしまっている）

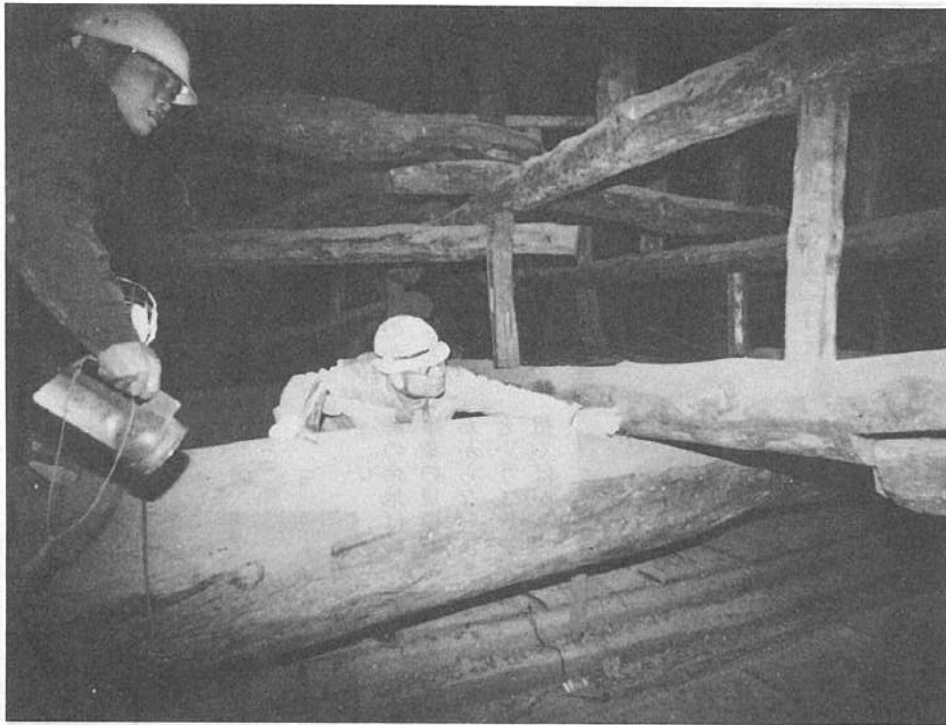
診断結果を報告する大野氏



④屋根裏の状況は、使われている小屋組み（掛木から上）の材料が細く、古材のようである。したがって耐久力がなく、ツカとカケ木、ツカとモヤなどのホゾが全く駄目になっている。

⑤雨もりのため軒先の木口、裏甲などが腐ってしまった。全部クギがきかないのではないか。
⑥その他、化粧タル木や土板など目にみえない部分でかなり補強改修するところが出てくるであろう。
⑦以上を総合していえることは、善巧寺の屋根は大変弱わっており、全面的に解体修理しないと大変なことになるであろうということであります。

屋根裏に入って調べる酒井氏



解体修理やむなし



応急措置のまま老朽化した母屋

る門徒の業者の方々にお願いして入札に——というこ

葺きかえだけで、経費を最低限に……と願っていたわたしたちはここで強烈なショックをうけたわけですが、さらに、大野さんにうか

たことがわかりました。
④屋根裏の状況は、使われている小屋組み（掛木から上）の材料が細く、古材のようである。したがって耐久力がなく、ツカとカケ木、ツカとモヤなどのホゾが全く駄目になっている。

⑤雨もりのため軒先の木口、裏甲などが腐ってしまった。全部クギがきかないのではないか。

入札

葺きかえから解体へ——総代会の皆さんと検討を進めてゆくうちに、どうしようもない結論が浮き彫りにされてまいりました。各地の説明会では、どうしてそのことを逐一門徒に説明しなかったのかとの声も聞かれました。総代さん方もそのことを早く門徒に知らせねば、という方も多くいらっしやいました。もちろんその通りで弁

解の余地はありません。しかし、事業の規模も、予算も、まったくわからないまま、ただ大変だ、ということ報告しても、混乱を招くばかりですし、それよりな

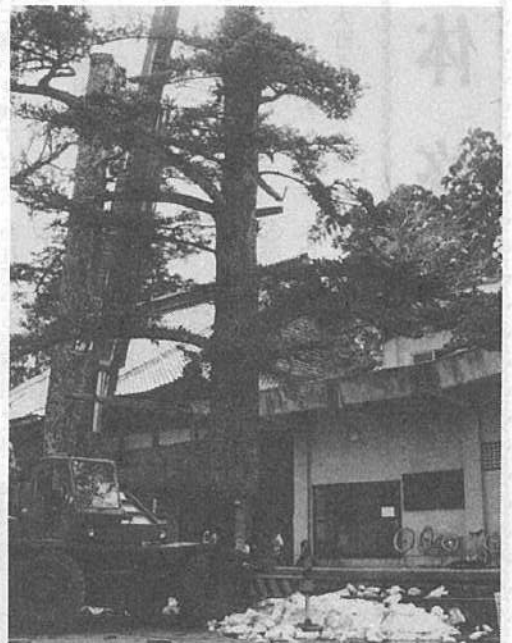


田屋解体で各所のいたみが……



着工

より、最終的な事業計画を決めてからでないことには、今年中に工事が完成しないのでは、というおそれが先立ち、とにかく、しっかりとした修復計画を一刻も早く出すことが先決ということで、今回の事業計画が進められたということは、どうかご理解いただきたいと思うわけです。



予算節約のためも考えて境内のトガの木が切られ、破風板に使われる。

重審議の結果、まず屋根を銅板で葺くという計画を進めていたがこれをなんとか、瓦にして、予算を四、五〇〇万減らさねば……と、急きよ、業者側へも、銅板見積を瓦の見積にと連絡、設計者の大野さんもこれを了解されて、二転三転したこの修復事業も、ようやく落

予算

工事は六月一日に遷仏、起工式。四日から囲足場組、屋根解体、仮屋根足場組、トタン葺き、丸柱上げ下げ、破風板型おこしと進んで七月は材木さきみ、八月棟おこしから盆までに屋根タルキ、土板。このあと瓦が葺かれ、十月はじめに完成の予定です。

五月十六日、第五回の臨時総代会が開かれ、総予算は、四千五百万円にのぼることが明らかにになりました。

内訳は——

- ①大屋根解体修復 二九八〇万
- ②付帯工事（防火等）四五〇万
- ③設計監督費 一五〇万
- ④金利 五〇〇万

⑤諸経費 二〇〇万
⑥予備費 二二〇万

ということでは工事は屋根の危険度と今秋完成ということからみて即刻着工ということになり、六月一日に起工、遷仏式を行い、現在、着々と工事が進められている状態です。

ちつくところとなったような次第です。

五月十四日、板屋の島田工務店、浦山の本波工務店、下村の大藪工務店の三業者による入札は、なかなか折り合いがつかず三度の入札が行われ、最後はその中の最低額だった大藪工務店と話し合いに入り、結局、二、九八〇万円でお願ひすることになりました。

募財計画

三ページにわたってのべてきた大修復事業の顚末も、結局、ゆきつくところは募財の問題であります。説明書にも書かせていただいたこととありますが、総額は四千五百万円です。この結果、どうしても、懇志は一口九万円を越える額を考えていたがなくてはなりません。

一口九万円を越える額——この額は、はっきり申しまして多額であります。三年前に六年がかり

で計画的に集めさせていただいた三法懇志と同額であります。

なんといいようがありませんが、とにかくお願いするしかありません。わたしたちの先祖が百年前に建てかえた善巧寺の本堂を、なんとか子孫に残してやりたいものだと思います。

いろいろなご意見もございまして、うが、事態は切迫しております。七月十五、十六日の祠堂経からお盆までの間に、ただだけに、精一

杯のご懇志をお願いいたします。

この期間中に一口九万円を完納された方には、寺からのお礼として、内陣法名軸にあなたの先祖あるいはご本人の法名を記載して永代祠堂扱いとさせていただきます。なおこの事が逆に門徒の方の疑問を生み「内陣法名扱いなんかしなくてもいい」とか「早く納めさせるための手段としか思えない」とかのご意見をうかがいましたが、その通りでありまして、純粹な気持ちなら、こんなものは一切なくしていいわけで、それなら、本山の院号だって、必要ないわけですが、ご承知かと思いますが、院号とい

うのは、純粹な気持ちで本山に懇志を十万円以上納められた方に、本山からのお礼として下がるものでありまして、十万円で院号を買うのでは決してありません。これがおわかりいただければ、本山流に純粹な気持ちの志に対して、内陣法名軸に記載させていただくのが寺として当然のことかと思っております。このあたりのこと、ご理解いただきたいと思います。

さて、最後になりましたが、一口九万円につきましては、はっきり申しまして強制ではありません。ただ、平均これぐらいなければ今回の事業が成り立たないとい

うことでありますので、そのところをそれぞれにお考えいただければと思います。

志納の方法につきましては、七月十五、十六日の祠堂経に寺へ持参いただければありがたいわけですが、先祖の法事でも参れないという方は、近くの總代さんにことづけていただいても結構です。

また、先日の説明会では、それもめんどろから、あっさり、寺の会計の振込み口座番号を教えてください、という方もございました。なるほど、そういう方もかなりたくさんいらつしやいますので、ここに、善巧寺名義の口座番号をおげさせていただきます。

六月十四日 木曜日 快晴
解体作業が始まると一番心配なのは、天候である。何分にも、既に梅雨入りが宣言されて居り、天気予報には特に敏感になる。昨夜も、ラジオで阪神・中日の甲子園の野球を聞いていたのだが、東京は雨で、巨人・広島が取り止めになっている。

此の頃は、四時過ぎから明るい。今日も、文句の無い好天で安心する。少なくとも此処数日は大雨だけは降って欲しくない。

仕事の邪魔にならぬように、作業帽を着用して外に出て見る。吉野工業の巨大なクレーン車が、文字通り、天に屹立した腕を伸ばしている。瓦屋根は完全に撤去されて、木組が裸の姿を露呈している。

其処に十数人の作業員が、今日も声をかけあって作業に従事している。工程の細部は、私には全くわからないが、烈日の下、汗を流して働いている人々の姿は全くたのしい。

近所の門徒のおばさんに、毎日手伝いに来て貰っている。毎朝、麦茶を冷し、作業の方々にサービスするのも此のおばさんの日課の一つになっている。作業員にも、若い人ばかりでなく、年輩の方もまじっており、「おばさん、おばさん」と、親しまれているようである。此のおばさんから今日



住職日記

は「押しずし」を頂く。
昨日、下立の門徒の方が持ってきてくれた「熊谷草」を庭に植える。去年八尾開名寺から頂いた「文字摺り草」は「はたるぶくろ」は、順調に成長している模様。今年は例年より遅く開花している。さつきの盆栽を書齋に運び入れる。

明後日は、江州本行寺の法要に出掛けねばならない。宅急便で、法要に着用の装束を送る。電話一本で宅送してくれる此の便を、此の頃よく利用する。色んな事が年々に便利になったものだと感心する。
昼食は「ざるそば」。おばさんも

一緒に食卓を囲む。孫たちは、三人共学校。
食後、又作業帽をかぶって、工事場に顔を出す。今朝から建て始めていた工事事務所がもう建ち上がっている。プレハブ作りというのであろう。四間に二間の建物である。明朝から、此の中で工事の段取りが設計図を前に進められるのである。
今日の員数、計17名。

作業帽 脱いで

男の汗 流る

クレーンの腕の指す方

夏の雲

黒部農協(店)宅(口座)二〇六八三
北陸銀行(店)宅(口座)二〇二二五
なお、盆までにはどうにも……というお方につきましては寺の報恩講(十月十九、二十日)にでも、またそれもむりとなれば門徒報恩講でお宅へうかがった時にでも、ご相談させていただきます。

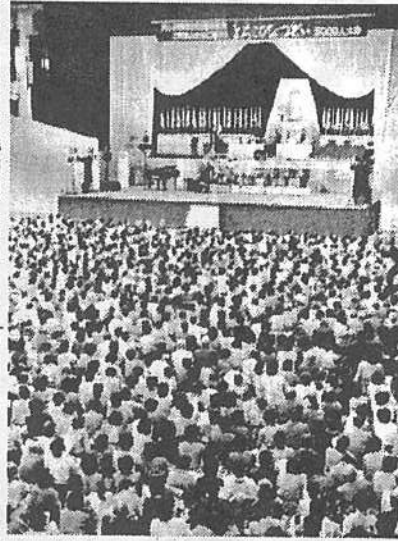
お一人お一人が、わたしたちの寺、善巧寺のことを、それぞれに考えて下さり、それぞれに、ただけのことをなさって下されば、ありがたいことかと思ひます。どうかよろしく願ひいたします。

修復委員会監督 鬼原 勝治
同、菊地 良造 佐々木 与作
総務 総代 一同
会計 中山慶太郎
事務 雪山 隆弘

よるじぶのじぶに七千人!

越中門徒が動いた——と評判になった富山別院開創百周年法要の記念大会「よろこびのつどい 五千人大会」は、当初の予想をはるかに上回って、七千人を超える

富山別院で100周年法要 シンギ 7000人もの信者集う



浄土真宗本願寺派富山別院(平野直義住持)の開創百周年法要記念行事の「よろこびのつどい 五千人大会」は、二十七日午後一時半から富山市体育館で開かれた。写真

五千人を超す七千人の信者が会場を埋め、おどろきの三と三百人の合唱隊によるコーラスで開演。会場正面に掛けられたステージで平野住持の安ん子劇団が子供ミュージカルの「つちのおとこちゃんえらいんだ」を演じた。

大谷光岡主と教育評論家の吉岡たけしさん、大谷市立大助教授の倉嶋晴さん、大谷市立大の校長の赤尾三千代さんのアトラクションを

大観衆。善巧寺は若院をはじめ、雪ん子劇団、婦人会と、総動員で大いにハレをさせていただきました。

仏舍利塔に菩提樹のタネ

遠くインドのブッダガヤから、黒部の仏舍利塔に、菩提樹のタネが届きました。今年一月にインドに渡った若院一行の仏跡参拝団の働きが効を奏したもので、六月三日行われた、黒部仏舍利塔法要で、若院から黒部の荻野市長へ

と手渡されました。この菩提樹のタネは、はじめ、インドの大菩提会のグラナターナ総長との約束で、ご本人が四月に来日して直接手渡すということになっていましたが、その総長が急死され、菩提樹の話はたち消えに

なりそうでした。

そこで若院や、当時の旅行社の方が八方に手をつくし、六月三日の法要までに黒部仏舍利塔に菩提樹のタネを」と訴え、ようやく五月末になって大菩提会の新総長や、現地でこのことを知ったガイドさんらから続々とお寺や当時の旅行団の

メンバーの手にタネが届きました。善意の結晶の菩提樹のタネは、富山大学の温室で育てられるそうです。が、スクスク、大きくなくて仏舍利塔を飾ってほしいのです。なお、このタネは、わずかで寺にあります。育ててみようと思われ方は、若院まで。

寺の大法要が写真大賞!!

析屋の門徒の野畑博さんが、このほど、富山県展・写真の部で、見事、大賞を獲得されました。そしてその写真が、なんと、2年

前の善巧寺の大法要の時のもの。たくさんさんの写真を張り合わせたこの作品、ひよっとしたらあなたの顔もうつっているかもしれません。

笑いのウズ! 野休み落語



恒例のうらやま野休み落語会、今回は寺の工事の都合で仕方なく宇奈月中央公民館で開かれました。おなじみの永六輔さん、柳家小三治さん、入船亭扇橋さん、扇好さん、それに内海桂子おばさんもお出まし。さらに、もう一人、ゲイ人、ピーコさんが特別出演して、会場はとにかくもう笑いのウズでありました。今年で七回目を迎えた落語会、出演者のみなさんとお集まり下さるみなさんのあたたかい心のふれ合いで、ほんとにすばらしい会となったことを、夢を語る会の世話人一同、胸を熱くしてよろこんでおります。

合 掌

バリバリッ ドッシャーッ!! いやはや、たいへんなさきわでありました。五月十五日夕方、寺の本堂の天井裏のハトのフンのそうじをしていた若院と高島有哲さん、天井板もろとも五・六メートル下の床へ転落したのであります。高島さんは腰骨を折って二カ月の重傷、若院は左足指骨折と胸部圧迫による出血で一カ月のケガ。

おはずかしいかぎりですが、その心はご理解いただきたいのです。寺の大修復をなんとかりっぱに完成させようと願うあまり、きたない天井裏もこの際、目をつぶらないで、われわれでそうじさせていただこうと若い坊さん二人が天井に上がったわけなんです。

「ちようどこのへんだな。朝のつとめでご文章拝読してたらよくフンが落ちてくるのは…」

「いやあ、ひどいなあ。こんなにたまっているとはなあ」こんな話をしている矢先の出来事でした。死んでもおかしくない事故でしたが、二人共、生きてます。たくさんのお見舞、ありがとうございます。

